

# 野

生物を撮影するた  
めには彼らに出会わ  
なければなりません。  
当たり前のことです  
が、それが何よりも難しいことだ  
と日々感じています。今回は白糠  
でエゾフクロウを探し回ったとき  
のお話です。

## 汗だくで歩き回って フクロウ探し

ある冬の夜、森の中にいると「ホ  
ー、ホー」というエゾフクロウの  
鳴き声が聞こえてきました。白糠  
では、まだその姿を見たことがな  
かったので、次の日エゾフクロウ  
を探すことにしました。

多くのエゾフクロウは、冬とそ  
れ以外の時期で住む場所を変えま  
す。冬は人里近くで、冬以外は山  
奥で暮らすことが多いようです。  
エゾフクロウの巢は、木に開い  
た「ウロ」と呼ばれる大きな穴。  
大きなウロは若い木にはできませ  
ん。樹齢100年とか200年と  
か経った古い木が育つ森が、人里  
近くにも山奥にもないとエゾフク  
ロウは暮らせないので。自然豊  
かな白糠とはいえ、エゾフクロウ



白糠で見つけたエゾフクロウ



クチバシで足をボリボリ

探すのをやめたとき、  
見つかることもよくある話で

その後もずっと気になっ  
ていた白糠のエゾフクロウ。

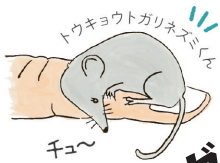
「たしかに鳴き声は聞こえた  
んだけどなあ」。そんなあ  
る日、白糠で車を運転中、視  
界の隅に大きな木が映りまし  
た。車を止めて森に入っ  
てよく見ると、いかにもエゾフク  
ロウが好きそうなウロが開い  
ています。しかし、ご本人は  
不在。「こんな絶好のウロ、  
エゾフクロウが放っておくだ  
ろうか」。そう思って、次の  
日は時間帯を変えて行ってみ  
ました。すると、そこにはウ  
ロの縁に鎮座するエゾフクロ  
ウがいたのです。そろそろ今  
年も、あのエゾフクロウがあ  
そこに引越してくる頃です。

が暮らせる大きなウロは、そ  
ういくつもあるわけではあり  
ません。なので、最初はすぐ  
に見つかるだろうと思ってい  
ましたが、甘かったです。いくら  
探しても見つかりません。ス  
ノーシューを履いて、斜面を  
登ったり降りたり。あつと言  
う間に汗だくです。それを何  
日も続けましたが見つからず、  
ついにエゾフクロウ探しを諦  
めたのでした。

## 「野生生物たちとの出会い方」

VOL. 7

# トガリネズミラヴァー 六田晴洋の 私たちの ご近所さん



### PROFILE 六田晴洋

ろくたはるひろ 1986年生  
まれ。2021年に白糠町へ移  
住。大学卒業後、フリーラ  
ンスのカメラマンやディレ  
クターとして野生動物や自  
然風景を撮影している。  
E-mail rokuta@six-h.com